

弘教寺



第60号 発行所

〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-二 浄土真宗本願寺派弘教寺 寺報編集部 電話 0二七〇(七四)〇五七三



つつじ寺だより第六十号に寄せて

弘教寺住職 中山英昭

平成十七年(2005年)に「つつじ寺だより」は誕生しました。多くの皆様のご支援、ご協力によりこの度六十号を発行出来ました。ただただおかげさまの思いを強くしております。

第一号が発行された時、今思えば弘教寺がいちばん充実した時代でした。前住職の時代に結成された仏教婦人会に加えて仏教壮年会が結成され、様々な活動が生まれました。婦人会ではフラダンスの会、コーラスの会、手芸の会等、壮年会では婦人会の活動に刺激を受けて、ゴルフ会、カラオケ会、マージャン会、囲碁の会等が生まれ、各サークルは活発な活動をしておりました。合同研修旅行、子ども会活動も加わり、賑やかな日々でした。

そんな中せっかく色々な活動しているのに門信徒の皆さんに活動報告することも必要かなと思うようになりました。

そんな思いでいたときに、やがて初代の編集長になっていただいた玉田忠さん宅を訪問した際に、茶飲み話で、寺の新聞を出したいことを話したら、一週間後には壮年会員、

婦人会員の方々を十五人も招集し、会議が持たれ発行が決まりました。さすがにこちらに來られる前に大きな会社の社長をされた方だけに、即断即決の早業に驚かされました。「つつじ寺だより」の誕生です。

どんな新聞にするかいろいろと意見が出て、見やすい内容、写真も入れたほうが良いという意見も出て、白黒よりもカラーの写真が良いということになり、編集が進みました。写真の一つのページに集めすぎて、お店のカラーコピー機を詰まらせて何台も故障させてしまった失敗談もありました。現編集長の橋本勝さんは仕事柄報告書を出すことが多いことから、つつじ寺だよりでは当時原稿の編集を担当して頂きました。全ての原稿をエクセルで取り



込んでいたようで、当時のご苦労がしのばれます。今ではまとめやすいソフトが出来ましたので、大分楽になったようです。こうしたひとつひとつが今では懐かしい思い出です。原稿が集まっても、

次の校正作業が大変で、私の原稿もあちこちに訂正が入り、文章力の無さに反省しきりでした。

仕上がった便りを総出で発送し終えたとき達成感のようなものが味わえます。完璧なものではないかも知れませんが、皆さんで作上げた喜びがあります。今では息子たちも加わり、次男真悟の自転車の旅日記は好評で、参拝の折に話題となることがあります。

私どもにとって「寺の今を伝える」ことが大切と思っておりましたので、つつじ寺だよりの話が出ますと本当に嬉しくなります。

つつじ寺だよりの価値は寺と門信徒の皆さんが共に協力して作り上げているところにあります。かつてあるご住職からそのことを言われたことがあります。住職や寺族の方々が発行する新聞は多いけれど、門信徒の皆さんが加わって作っているところに価値があると言うのです。当時当たり前のように考えていた私でしたが、そのことの有難さを知らさせていただきました。

門信徒の皆様、つつじ寺だよりをご購読くださっている皆様、原稿を執筆して下さい皆様、毎号ご苦労下さっているスタッフの皆様、紙面を通じて改めて感謝申し上げます。今後ともより良い寺だよりとなりますよう精進してまいります。



第1号

6月19日第4回目となる歌声喫茶が6年ぶりに開催されました。平成30年7月の初めての開催が大変好評で、令和元年5月と10月と続きましたが、コロナ禍で中断。今回は、待ちわびていた皆さんの期待を裏切らない、元氣いっぱい楽しい歌声喫茶となりました。

アコーディオン奏者の三好創

さんは、館林市を中心とする東毛地区、足利や本庄など近県にわたって歌声喫茶を展開しています。歌詞を間違えたついで、お腹から大きな声を出して歌おうと参加者の元気を引き出し、全17曲を歌い切りました。

三好さんのアコーディオン独奏も素晴らしく、皆、その曲の世界へ引き込まれていました。次回を期待する多くの声が聞かれました。



坊守



三好創さんと歌おう

第4回歌声喫茶

参加者感想

待ち望んでいた歌声喫茶がやっと開催されました。久しぶりの三好先生は重いアコーディオンを抱えて元気に登場です。コロナ禍でも医療関係の所で週一回で患者さんたちのリハビリのお手伝いをしていたそうです。大きな声で歌うとお腹がすき夜ぐつすり眠れるとのこと。

早速先生の伴奏で歌い始めましたが、声が小さいと叱られ、再度やり直して気合を入れて大きな声で挑戦しました。次から次へと休みなく、アコーディオンに合わせて歌詞カードをめくるのも忙しく懐かしい曲を歌いました。途中休憩の後、先生の演奏で映画「ひまわり」「太陽がいっぱい」のテーマ曲を聴き、若い頃の日々を懐かしく思い出しました。年を取ると楽しみも少なくなりますが、弘教寺で色々企画してくださるので、いつも楽しく参加しています。先生の歌集を買い求めサインもいただき、今から次回を楽しみにしています。

釋徳静 (佐藤静枝)



6月19日10時晴天
ご住職からお誘いをいただき、友達6名(住職の同級生)で参加しました。

アコーディオンの伴奏で昭和歌謡を唄うとお訊きし、みんな楽しみでワクワクしていました。三好先生のご指導のもと、若い頃の歌を懐かしく思い出しながら唄いました。

総勢5、60名の参加者全員が、笑顔に包まれ昔を懐かしむように、大きな声で楽しそうに唄っていました。大盛況で和やかな雰囲気でした。

三好先生、ご住職、スタッフの皆様ありがとうございました。

内田秀子



弘教寺永代経法要ご報告

4月29日、弘教寺永代経法要がお勤まりになりました。昨年度の法要まではコロナ禍の影響もあり、弘教寺の僧侶のみでのお勤めでしたが、今年度からは組内ご寺院の法中方ほつちゅうがたに来ていただき、盛大に勤めることができました。ご法話のご講師は、いつもお世話になつていらっしゃる蓮照寺ご住職、松岡満優先生にお願いをいたしました。

永代経法要というのは、弘教寺にこれまでかかわってきた方々、すべての故人を総追悼する法要であり、この法要をご縁として、仏法に触れること、そしてその縁が永代に続くようにという願いをもってお勤まりになる大切な法要です。

この度は、ご住職方はもちろんですが、若い法中方にも多く来ていただきました。敬西寺様、西福寺様、清光寺様、西蓮寺様と、多くのご寺院様から若手の方にご出勤賜りました。私自身も昨年の報恩講に引き続き導師としてお勤めをさせていただきました。私を含め、半数以上の方が五十代に満たない若い世代となり、世代交代が進んでいるように感じられました。



毎年お勤まりになる永代経法要ですので、ぜひさらに多くの方々に参拝いただきたいと思ひます。

釋真瑛(真悟) 合掌

「音御堂」築地本願寺」報告

坊守

6月25日「音御堂」築地本願寺2025(第14回東京教区コーラスのつどい)が開催されました。東京教区の寺院を中心に、仏教讃歌を愛好する人々が、その素晴らしい音を分かち合いつつ、日ごろの練習の成果を発揮し互いに交流する場となっています。昨年の音御堂スペシャルでは、親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要に協賛し、作曲家平田聖子先生に委嘱して作られた「仏のみ名を聞きひらき」が、200名の大合唱となつて響き渡りました。コーラスひまわりは、第12回からの参加し、会代表の教覚寺前住職南荘宏先生のご指導のもと教区内コーラス団体の皆様との交流を図っています。

「音御堂での素晴らしい体験」



コーラスひまわりのメンバーとして築地本願寺本堂で歌う「音御堂」の貴重な素晴らしい経験をさせてもらいました。団体発表では、各グループの美しいハーモニーを聴くことができ、ゲスト演奏では、ソプラノ歌手西野薫さんの歌曲に酔いしれました。合同演奏には私も参加し、南荘先生の指揮で平田先生の曲を本堂一杯に溢れる120名のハーモニーと力強い歌声で歌いあげました。その中に包まれた私は、今までで一番上手に歌えたかと充実感で一杯になりました。ご指導くださった先生方に感謝し、音御堂での仏教讃歌をこれからも宝物として大切にしていきます。

早川恵美子

「浄青僧フットサル全国大会」



5月4日、第十四回浄青僧フットサル全国大会が札幌市の「つどいむ」で開催されました。この大会には日本全国から8チームが参加しました。東京教区からは私も含めて一人が参加し、大阪との合同チームで戦いました。大会は4チームずつ総当たりのリーグ戦と各リーグ上位2チームの決勝トーナメントで行われました。私たちは最後には敗れたものの準優勝という成績を収めることができました。走りっぱなしで大変でしたが、楽しく汗を流すことができました。

※ 浄青僧 浄土真宗青年僧侶連絡協議会

釋大悟

第40回弘教寺ゴルフコンペ報告

6月12日大間々ゴルフクラブで第40回コンペが開催されました。6組22名が競い、天候にも恵まれて参加者皆さん楽しくプレイできました。終了後はクラブハウスで表彰式と懇親会があり、佐々木康平さんが優勝しました。ネット57でした。次回コンペは十一月に予定しております。楽しいコンペですので、参加希望されます方は、弘教寺へお問い合わせ下さい。



住職

京都く群馬ぶらり自転車旅(6)

六日目、沼津市にて一日休息をとる。この日は沼津港まで歩いて観光に行き、おいしいサバサンドとアイスクリーム、快晴の空に白く映える富士山、美しい青が広がる海をながめ、夜には高校の同級生と刺身や富士宮焼きそばを食べる等、目にも腹にも大変良い時間を過ごすことができた。何より、自転車だと痛くて仕方ない膝が、歩くと全く痛くないことが大きな救いとなって良い休日になった。



そして七日目、沼津市から神奈川県藤沢市まで、山越えの日である。御殿場市をぬけ、箱根の山を避けて山と山の間を通るルートを走った。上りは緩やかで、走るのにそこまで苦しまず、膝の痛みと付き合いながら二十キロも走れば上りは終了し、残りはこぐ必要もないほどの下り坂が待っていた。上っている最中、左手に沼津で見たよりも大きく、壮大な富士山が見え、かなり心が震わされた。山を下りた後は、海岸線の砂まみれのサイクリングロードを走ったが、その際見かけるサーフボードを持った人、自転車にサーフボードを置くことができるとか、海沿いならではある人など、景色を見ることができて、とても楽しく走ることができた。想定よりもかなり楽な道のりで楽しめた一日となった。

釋真瑛(真悟)

『納骨壇の分譲』はじまる

今年一月より本堂西の間の一部を改修しまして、老朽化した納骨壇から新たにレンタル式の個人用納骨壇と合同式の納骨壇を設置致しました。従来の納骨壇は事情により墓地を保持しない方の一時的にお預かりする為のものでしたが、長期にご利用いただける納骨壇として考えております。

個人用納骨壇は十四基設置致しました。合同納骨壇はご遺骨三十体お預かり出来ます。近年の墓地事情も考慮して、他にも小規模墓地も同時に分譲致しております。

関心のある方は弘教寺までお問い合わせ下さい。 住職



- 《合同納骨壇》
年間の利用費 一万円
- 《個人用納骨壇》
年間の利用費 三万円

編集後記

皆様のご協力のおかげで第60号という節目に当たります。目には届きませんが、目を通しました。「読みやすく多くの方に目を通していただける寺だより」を念頭に編集作業に取り組んでまいりました。この大きな節目を振り返りの機会とし、今後もより親しみやすい寺だよりの作成に努めてまいります。なお第1号からの寺だよりは弘教寺のホームページでご覧になれます。この20年間の弘教寺の様子も知ることが出来ますので是非開いてみてください。 栗原政廣

◆ 行事予定 ◆ 令和7年8月 ~ 令和7年11月				
月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月	15日(金)	合同お盆法要	13日~16日	お盆
	21日(木)	婦人会例会		
9月	14日(日)	壮年会例会	18日(木)	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	17日(水)	婦人会例会	20日~26日	秋彼岸
			30日(火)	組仏婦連盟総会
10月				
	23日(木)	婦人会例会		
11月	1日(土)	クラシックコンサート	11日~16日	築地本願寺報恩講法要
	9日(日)	壮年会例会		
	未定	第41回ゴルフコンペ		
	20日(木)	婦人会例会		